

Market Flash

2020年7月29日(水)

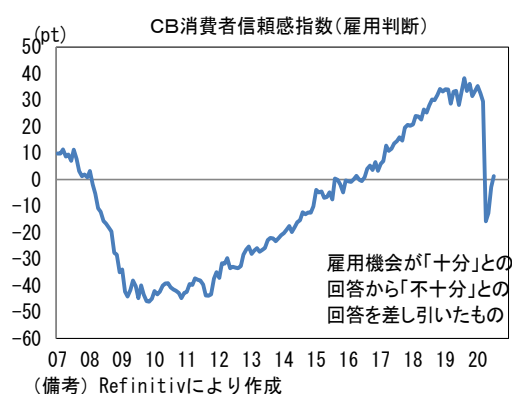
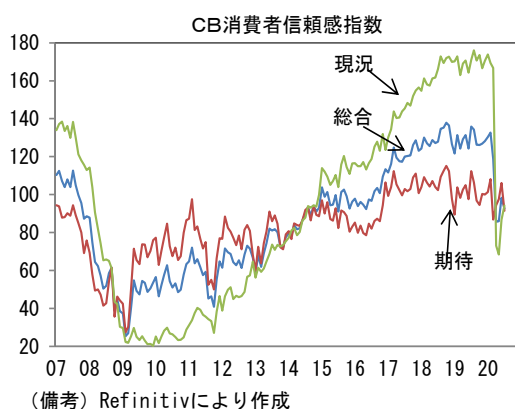
経済は戻らなくとも株価は戻った ～マネーの向かった先は金融市場だった～

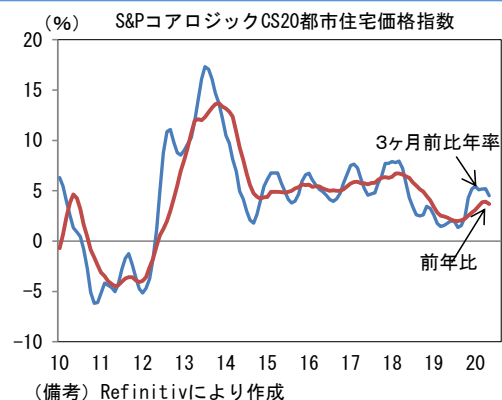
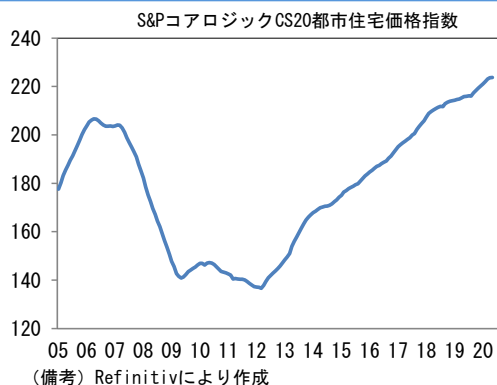
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:03-5221-4523)

- ・日経平均は先行き12ヶ月22,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移するだろう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利下で資産購入を継続するだろう。

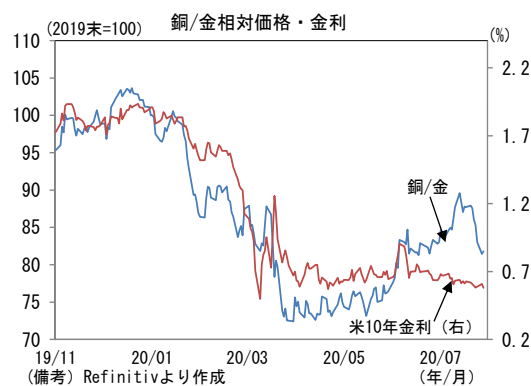
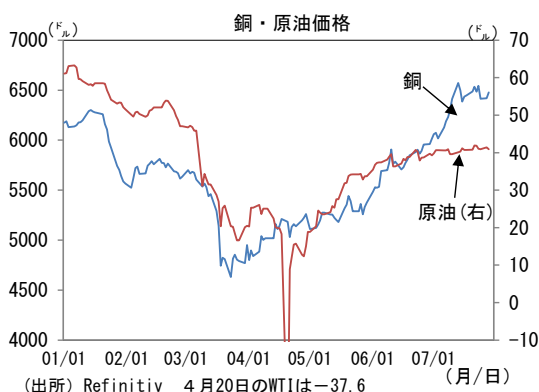
< #株価見通し #緩和マネー #マネーストック急増 >

・前日の米国株は下落。NYダウは▲0.8%、S&P500は▲0.7%、NASDAQは▲1.3%で引け。コロナ感染拡大に伴い経済活動再開が鈍化すると懸念が煽るなか、大型ハイテク株の弱さが続き、決算が市場予想に届かなかった銘柄にも売りが膨らんだ。VIXは25.4へと上昇。クレジット市場はIG債（投資適格）、HY債（投機的格付）が共に軟調。米共和党は包括景気対策のパッケージを公表。個人向けの1200ドルの現金給付に加え、教育施設に1000億ドルを支出する。注目の失業保険上乗せ給付は現在の週あたり600ドルから200ドルに減額した後、体制が整い次第パンデミック発生以前の賃金の70%を上限とする仕組みに変更するという。経済指標は**CB消費者信頼感指数**が92.6へと悪化して市場予想（94.5）を下回った。内訳は現況（86.7→94.2）が改善した反面、期待（106.1→91.5）が大幅に低下。失業保険上乗せ給付の打ち切り懸念が強い模様。他方、雇用判断は+1.3へと改善し4ヶ月ぶりにプラス圏に浮上。**5月ケース・シラー住宅価格指数**は前年比+3.7%へと小幅減速も2019年後半からの加速基調を維持。NY、LA等の大都市で局所的な不動産市場の異変が伝えられているが、全体としてみて住宅価格が下落している気配はない。

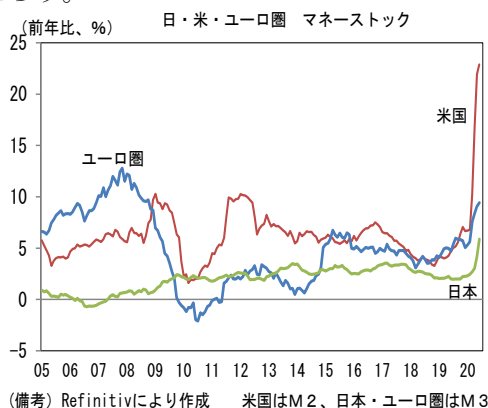




・米金利カーブはブル・フラット。2年は0.139% (▲1.3bp)、10年は0.579% (▲3.6bp)、30年は1.217% (▲4.3bp) で引け。予想インフレ率 (10年BEI) は1.504% (▲1.4) へと低下。為替 (G10通貨) はUSD全面安が一服。JPYの強さが続いた一方EURは下落。USD/JPYは105近傍、EUR/USDは1.17前半で推移。商品はWT I原油が41.04ドル (▲0.56ドル) へと小幅に下落した反面、銅は6477.0ドル (+56.5ドル) へと反発。金は一時急落も1944.6ドル (+13.6ドル) へと上昇した。安全資産の「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格 (銅/金) は概ね横ばい。米10年金利との乖離は縮小しつつある。



・日経平均株価の見通しを22,000円に引き上げる。世界経済は深刻な痛手を被っているものの、金融緩和と拡張的財政政策が続く下で先進国株価は底堅く推移すると予想する。コロナ禍で消費、投資が停滞しマイナスの需給ギャップが存在するなか日本、米国、ユーロ圏のマネーストックは急速に増加しており、余剰資金の一部が株式市場に流入する構図が続く見込み。最近の金や銀、ビットコイン等の上昇もそうした文脈で説明でき、そうした下で日本株も現在の水準を維持すると予想する。企業収益がコロナ以前の状況を取り戻すには相応の時間を要するも、当面は政策対応に対する期待が株価をサポートするだろう。



- もっとも、コロナ前後で生じた業績の断層によってEPSやPERといった投資指標の有効性は低下している。適正なバリュエーションが算定しにくいなか、何らかのきっかけで急落に見舞われる可能性は常に隣あわせとなる。言うまでもなくコロナ禍長期化は要注意。来る2020 - 21年冬場に20年のようなパンデミックが再来すれば、多くのセクターで業績下方修正が一段と進むのは自明であるが、目下の株価はワクチン開発成功と大量供給を前提にしている空気すら感じられ、やや楽観的な印象を受ける。リスクはダウンサイドに傾斜している印象だ。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

